

鴨立庵だより

鴨立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場である。初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているでござるよ。



鴨立庵大使「えんいくん」
※俗名は佐藤義清(のりきよ)。
出家して法号は円位、後に西行。



上) 鴨立庵外観
下) 花の会



◆ 今月の俳句 ◆

木の実降る 太古の音の響きけり

聖ワスラ学院英智高等学校 横溝 麻志穂

(評) 季題は「木の実降る」。秋も深まってくると、椎・樫・榎・団栗などの「木の实」が熟して、ぽろぽろと落ちます。「しずかなしずかな 里の秋。おせどに木の実の 落ちる夜は。あ あ かあさんと ただ二人。栗の実にてます いろいろばた」という美しい曲もありました。また大昔の、縄文時代の人々の暮らしなどを想像すると、団栗や橡の実を水で晒して、食用にしていた日々のことなども頭に浮かんできます。そんな「太古」の暮らしに身を置いてみると、何気ない「木の実降る」音も、とても大切なものとして響いてきます。

(鴨立庵庵主 本井 英)

◇ 今月の短歌 ◇

幸せなような気がするキャラメルコーン

頬張り君を忘れられれば

茨城県立下館第一高等学校 秋田 花奈瑠

(評) キャラメルコーンを口いっぱい頬張ったら、どんな気持ちになるのかな。幼い子どものように幸せな気分になれるかも。でも、無理。別れた君のことを忘れられない、今の私には。「キャラメルコーン」、「頬張る」、「幸せ」といった言葉の並びは、明るいイメージを醸し出します。その明るさゆえに、別れた君を忘れられない悲しみが、かえって際立ちます。切ないが、みずみずしい青春歌です。

(西行祭選者 柳 宣宏)

第六十六回

大磯西行祭 募集要項

■ 献詠俳句

【題】 雑詠二句まで(未発表の作品に限る)

【部門】 一般の部、小学生の部、中学生の部、高校生の部

■ 献詠短歌

【題】 自由二首まで(未発表の作品に限る)

【部門】 一般の部、小・中学生の部、高校生の部

■ 献詠俳句・短歌共通

【募集期間】 10月1日(土)から12月18日(日)まで(必着)

■ 応募方法

所定の応募用紙または原稿用紙に楷書で作品(カナ)、住所、氏名または雅号(ふりがな付記)、電話番号を必ず記入のこと。

電子投稿 鴨立庵ホームページ内「西行祭献詠俳句・短歌募集ページ」より

■ 応募先

〒22550003

大磯町大磯1289

鴨立庵西行祭献詠俳句・短歌募集係

講座の申込み・問合せ 鴨立庵 ☎(61)6926

定員 費用 持ち物

講座名	日程	時間	備考
連句勉強会	10月2日(日)	10:00~正午	連句づくりを楽しもう! 5期生募集中 講師:本井 英氏(鴨立庵庵主) 定15人 費2,000円(入庵料込)
寄席	10月8日(土)	開場 13:00 開演 13:30	演目:[町内の若い者][井戸の茶碗][味噌蔵] 演者:桂 三十助、三遊亭 夜遊、三笑亭 空巢 定15人 費800円(入庵料込)
座禅	10月15日(土)	13:30~14:30	姿勢・呼吸・心を整えます 講師:豊田 素道氏(慶林寺住職) 定10人 費500円(入庵料込)
花の会	10月26日(水)	14:00~16:00	実物を使った秋色アレンジ 講師:府川 葉月氏 定15人 費2,500円(入庵料込) 持はさみ、タオル、持ち帰り袋
伝筆	10月30日(日)	10:30~正午	温かみのある文字が書けるようになる筆文字教室 講師:認定講師 わでん伝筆マスター 宮前 礼子氏 対象:中学生以上 定10人 費3,850円(材料費・入庵料込)
茶と遊ぶ	11月5日(土)	10:00~正午	元紅茶カフェ店主のミルクティの楽しみ方 講師:高野 幸代氏 定10人 費2,000円(お茶菓子付き・入庵料込)